

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network Now

2017 No.495

3 / 1

JART情報
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル31階
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



平成28年度 マネジメント研修会 開催される!



平成29年1月28日(土)・29日(日)の2日間、ホテルコスモスクエア国際交流センター(大阪府住之江区)で日本診療放射線技師会主催のマネジメント研修会が開催された。本年度は、多様化する医療社会に適応する人材育成を視野に、テーマは「ダイバーシティー」とした。

本研修会は、医療経営の効率化に対応できる人材育成、経営に参画できる診療放射線技師の養成を目的とした階層別の育成研修として企画している。本年度は、例年の宿泊コースに加え日帰りコースも新設し、合計39人(宿泊参加28人、日帰り参加11人)の参加であった。

初日は、管理業務や医療経営のノウハウなど、日常のマネジメント業務に直結する内容を中心に、本会中澤靖夫会長よりJARTの政策と課題について、GEヘルスケア・ジャパン株式会社 和田美晴氏、清水俊博氏より企業での人事制度や企業文化、女性人材活躍推進の取り組みなどについてご講演いただいた。そして兵庫県放射線技師会会長 清水操氏からは、自施設で経営企画室へ参画している立場から経営思考についてご講演いただいた。

ワークショップやナイトセミナーでは、働き方やライフスタイルの変化などをキーワードに熱い議論が交わされた。参加者同士だけでなく、中澤会長はじめ講師の先生方や本委員会委員である岐阜医療科学大学 井戸靖司氏、上尾中央医科グループ 田中武志氏らもアドバイザーとして参加していただき、さまざまな立場からの本音で活発な意見交換が行われた。恒例になりつつあるナイトセミナーでも活発な議論が繰り返



げられた。管理者として複雑に絡み合う医療現場で日々発生する問題に対応し、苦悩している仲間意識が、激白のフリートークで語られた。そして例年通り、熱い激論は深夜にも及んだ。各医療施設の文化も歴史も背景も異なるため、さまざまな意見や事例から、自施設そして自部門に最適と思う意見を頂き実践するなどの意見があった。

2日目は、医療政策から医療介護に至るまで、あらゆる観点からマネジメントを考える機会として、特別講演Ⅱは、高崎健康福祉大学 木村憲洋氏より、さまざまな医療機関の経営に携わっている立場から地域医療構想についてご講演いただき、次に、本会児玉理事から他職種団体の動向の最新情報を伝えていただいた。2日間の研修の総まとめである全体討論では、役員や講師の先生方を交え最後まで活発な意見交換がなされ、盛会のうちに終了した。

本研修会も設立より6年が経過し、多様化する医療社会へ適応する人材育成を目指し、セミナーを充実させるとともに



さらなる最適化を図りたいと思っている。今後は、本会で策定中のマネジメントラダーとリンクさせ、ミドルマネジャー向け・トップマネジャー向けの階層別研修会を中心に、他の地域での開催も検討していきたい。また会員の皆さまが、多様化する医療社会に適応するためにも人材育成と活用が不可

欠であり、活躍する場を広げていただくためにも、情報の発信源として本委員会の充実を図ってきたい。

最後に、ご多忙の中、講師を引き受けてくださった先生方、参加された会員の皆さま、そして関係者の皆さまに感謝致します。
(人材育成委員会 マネジメント研修班 委員長 佐野 幹夫)

マネジメント研修会に参加して

源 貴裕 兵庫医科大学病院

参加者の
声

大阪で開催された診療放射線技師マネジメント研修会に参加した。この研修会には、全国から約40人の参加があった。今回のキーワードは「ダイバーシティ」で、このキーワードを基に、技師会の今後の政策と課題、雇用の問題、人材育成・経営思考・地域医療構想と多岐にわたるテーマについて、講演やグループワーク、セミナー形式の討論会などが2日間にわたり行われた。まさに研修会自体がダイバーシティである。

参加形式としては、1泊2日の宿泊コースと日帰りでの2日間コースがある。ただ、この研修会の魅力は、何と言っ

ても21時から開催されるナイトセミナーにある。そのため私は地元でありながら、宿泊コースで研修に参加した。今回、このナイトセミナーでは、妊娠や育児に関する女性技師の雇用問題、育児や介護における休暇の問題、非正規雇用の扱い、専門技師制度などのさまざまな視点から、普段の研修会や講演会で発言しにくい内容が真夜中までフリートークでどんどんと発言された。これこそナイトセミナーの醍醐味である。普段では聞けない本音がどんどん出て、さまざまなことを気付かされ、考えさせられた。今回の研修では、院内での横のつながりの重要性も感じた。一方では、このような研修会での技師間の横のつながりも重要である。このつながりは、今後、診療放射線技師間での大きなつながりとなり、さらなる大きな組織を動かす原動力になると確信した。

マネジメント研修会に 前年に引き続き参加して

望月 卓馬 聖隷浜松病院

参加者の
声

昨年に引き続き2回目の参加となった。本会会長の中澤氏より、厚生労働省が医療政策を進める中、現在、診療放射線技師がどのような立ち位置にあり、将来性と目指すべき方向性に関して分かりやすい講演を聴講した。地域医療支援の在り方が議論される中、われわれ診療放射線技師も医療支援にどのように関わらなければならないかを考えていかなければならないと思う。また診療放射線技師の疑義照会の重要性を知り、それらに関する具体的な調査・記録・対策は、セーフティーマネジメントを高めるための必要事項であると実感した。

人材育成とダイバーシティ活用の講演とワークショップでは、他施設参加者と職場における問題点を共有したディ

スカッションの後、解決策を共に模索することで視野が大きく広がった。医療現場で多くのスタッフと働く中で、個々の能力を最大限に引き出し、共に高め合う相乗効果へと結び付けるためには私自身に多様性が求められ、さらに継続的なコミュニケーションが不可欠であると気付かされた。管理者に求められる経営的視点では、採算性・将来性・計画性のポイントを学び、高額医療機器の共同利用は地域医療連携への貢献であり、効果的かつ効率的な活用へとつながる。今後の投資計画立案の際に生かしたい。さらに地域医療構想の政策と将来推移を学び、地域においてどのような医療が求められ、その中で当院はどのような医療を提供していくことで地域貢献できるのかを考える機会となった。

研修を通して、現在の医療情勢と今後の変化を知ることができ、これから自身が取り組むべき課題を見つける良いきっかけを頂いた。今後は、さらに医療政策と地域ニーズに注視し、地域医療に貢献していきたい。

第22回 ナイトセミナー開催される

平成29年1月23日(月)午後7時半より、本会事務所講義室において第22回ナイトセミナーが開催された。東京都内も寒さが厳しかったこの日、30人の受講生がセミナーに参加した。

講師は前回に引き続き、東京医科大学病院の吉田和則先生が務め「実臨床に役立つ胸部疾患の鑑別診断」シリーズの4

回目の講義となった。ナイトセミナーに初めて参加する受講者もいたため、講義の序盤は第1回からの復習を兼ねて「孤立性結節影」「多発結節影(粒状影)」「浸潤影・スリガラス影」についての解説がなされた。

続いて、今回のテーマである「線状影・網状影/空洞性陰影」へと話が進んだ。われわれが検査で遭遇する機会の多い間質

性病変を中心に、何が原因となって生じたものかにより分類し、その病態からCTや単純X線画像における所見まで詳細に解説が行われた。画像所見においては、それぞれの病態を比較しながら説明され、非常に理解がしやすかった。

特に空洞性陰影については、臨床現場で遭遇した際、患者の取り扱いにも関わるため鑑別は非常に重要となる。講義では、二次結核と非結核性抗酸菌症などにおける画像所見の違いについて、好発部位における空洞壁や気管支の所見を中心に解説があり、とても充実した内容であった。



第2回 Ai認定講習会開催される

平成29年1月28日（土）・29日（日）の2日間、駒澤大学駒沢キャンパスで第2回Ai認定講習会が開催された。本講習会はAi認定診療放射線技師のための指定講習会であり、死亡時画像診断（Ai）を適切に活用していくための基礎的な知識・技能の普及を目的として、診療放射線技師を対象に行うものである。受講者数は合計で117人（会員112人、非会員5人）と、関心の高さがうかがえた。

会場には前方に大きなスクリーンがある他、受講生の頭上にもスライドが見やすくなるよう複数のモニターが設置されており、スライドが閲覧しやすい会場であった。

初日は、医師から「Aiにおける基本事項」「Aiにおける法令・倫理」「Aiにおける医療安全・感染対策」「Aiにおける病理学」「Aiにおける法医学」「Aiにおける画像診断1 総論」「Aiにおける画像診断2 救急」「Aiにおける画像診断3 小児」の8つの講義が行われた。2日目は、看護師から「Aiにおける看護学」の講義があり、続いて「Aiにおける検査総論・

一般撮影」「AiにおけるCTの検査技術」「AiにおけるMRIの検査技術」の講義があった。その後、確認試験が行われた。最後に修了証が授与され、本講習会は無事に終了した。

本講習会は、非常に多くの皆さまに受講していただき、今後、Ai認定診療放射線技師の裾野がよりいっそう広がるものと期待する。



平成28年度 第2回JART-JIRA定期懇談会 開催される

平成29年1月24日（火）午後4時より、本年度2回目となるJIRA（一般社団法人日本画像医療システム工業会）との定期懇談会がJIRA第4会議室で行われた。

本会からは中澤会長、佐野副会長、熊代副会長、小田理事、江田理事、野村事務局長の6人、JIRAからは小松会長、木村専務理事、野口経済部会長、森事務局長、横田総務部長の5人が出席した。

本会からは、トレーサビリティ推進協議会、平成27年発

生検診者事故の調査報告、治療装置運用への診療放射線技師配置人数、創立70周年記念式典、第32回および第33回日本診療放射線技師学術大会について報告した。

JIRAからは、平成29年度活動基本方針、行政関係トピックス、創立50周年記念祝賀会、経済部会報告、法規安全部会報告についての説明があった。

次回開催は、平成29年7月ごろに本会事務所で開催予定である。

診療放射線技師実習施設指導者等養成講習会の開催

平成29年1月13日(金)から15日(日)までの3日間、第21回(平成28年度)診療放射線技師実習施設指導者等養成講習会が本会事務所講義室で開催された。診療放射線技師養成は、近年、四年制大学化が進み、高等教育として臨床実習指導教員に求められるものは“何を教えるか”ではなく“どのような内容を、どのような方法で学ばせるか”に変化してきている。本講習では「実習カリキュラムの作成とその意義」

で、臨床実習のコースデザイン(授業計画・カリキュラム編成・評価)を学び、「実習カリキュラムの実践とその評価」では、仮想的に臨床実習指導案の策定をグループワーク形式で試みた。全国各地から集まった受講生の方々が、この演習を通して問題の明確化、計画の立案、指導者間の調整を学び、さらに情報共有を行う有意義な講習会であった。



「診療放射線技師実習施設指導者等養成講習会(医療研修推進財団主催)」に参加して

阿知波 正剛

名古屋大学医学部附属病院

参加者の
声

今冬、最大の寒波の中、標記講習会に参加させていただきました。

医療を取り巻く環境が変化している中、医療人としての根本は倫理感や人間力であり、初めて医療現場に立ち入る臨床実習こそが、そういった医療人教育のスタートといえると思います。もちろん、学生本人の気持ち次第ですが、その臨床実習指導を担うわれわれの意識や対応も重要と考えます。卒業後は大学病院に勤務し、長年臨床実習指導を担ってきましたが、多忙な日常業務に追われ、つい“おごなり”になってしまっていることは否定できません。意識改革と言葉では簡単ですが、実際は難しく、そのきっかけになればと考え本講習会に参加させていただきました。

3日間、朝から夕方までのタイトなスケジュールにもかかわらず、充実した研修でした。「患者と接する医療人教育」

「Teaching is Learning」という言葉がありました。技術のみではなく医療者としての人格教育、チーム医療の一員としての自覚と責任を認識させること、そして自分自身の資質向上に努めることの必要性を再認識することができました。実習カリキュラム・コースデザイン演習でのグループ討議と発表では、大変有意義なお話を聞くことができました。参加者の皆さんの臨床実習に対する思いや熱意には正直驚きました。学生=新人=仲間という意識で、実習指導を実践されている先生方がたくさんおられ、目からうろこが落ちる思いでした。

4月になれば新しい学生を迎えることになりますが、「Teaching is Learning twice over」を心掛けて、一緒に成長したいと思います。

本研修に当たり、準備運営にご尽力いただきました医療研修推進財団関係者の皆さまならびに講師の方々に深謝致します。

AD講習会「看護学」開催報告

平成28年11月26日(土)・27日(日)の2日間、京都府立医科大学看護学舎で標記講習会が開催された。本講習会はアドバンス診療放射線技師格取得の1科目であるが、看護技術など日常業務においても非常に役立つ内容である。

参加者は北海道から九州まで遠方からも多数参加された。

講習会は「概論」をはじめ「母性」「小児」「成人」「老年」「在宅」「精神」の看護講習、また看護技術の演習では「体位変換」「位置移動」を数グループに分かれ、患者役を交代で

実践し、ベッド移動や体位変換、ストレッチャーや車いすを患者目線で実感でき、非常に充実した内容であった。

現在は開催回数が少ない講習会であるが、多くの会員に受講していただきたい。



基礎技術講習「看護学」を受講して

中島 智也

40をすぎた私ですが、アドバンス診療放射線技師を取得しようと思い、今回、医療基礎コース「看護学」を受講しました。

私は短期大学を卒業しており、今回受講する看護学は履修していません。医療基礎コースは、そうした専門学校や短期大学で履修していない科目として「看護学」「救急医療学」「医療安全学」「医療社会倫理学」の講習を開催しています。普段から看護学生に対して講義している看護大学の講師による授業でしたので、内容は濃く非常に有意義で、医療職としての知識が広がったという実感があります。「看護概論」ではナイチンゲールの話、一般病院勤務の私とし

参加者の
声

ては普段関わりの少ない「精神看護」、「母性看護」では妊婦体験として重りをおなかに抱えたり、「小児看護」では新生児の扱い方の実技、「老年看護」では耳が遠くなると高い声が聞き取りにくいという新たな知識を得、「在宅看護」では私の知らなかった訪問看護の実態が学習できました。さらに診療放射線技師としての業務で関わりのある「患者の起こし方」「ストレッチャーへの移動」「車いすの扱い方」などの実技があり、臨床現場で非常に役に立つ内容でした。「患者の起こし方実技」では、患者さんの苦痛の軽減はもちろん、腰痛防止のための技術までも解説されていました。今回は資格取得のための受講でしたが、こういった実技での知識も含めて「明日から役に立つ講習」でした。今後は“教養”のために、残りの講習会も受講しようと思います。

全国の皆さまからの義援金に感謝とお礼を申し上げます

平成28年熊本地震に際しまして、全国の皆さまから心温まる義援金を頂戴致しましたことに心から感謝申し上げます。本会会員で、住居家屋が全壊、大規模半壊、半壊の被害を受けた被災者への見舞金として使わせていただきました。本来であれば、個々に直接お伺いしてお礼を申し上げるべきところではございますが、この場をお借りしてお礼に代えさせていただきます。

復興に向けて頑張っております。今後とも、引き続き皆さまのご指導とご協力をお願い申し上げます。

一般社団法人 熊本県放射線技師会 会長 肥合 康弘

第9回 中部放射線医療技術 学術大会開催報告

中日本地域理事 山本 英雄



第9回中部放射線医療技術学術大会が平成28年11月5日(土)・6日(日)の2日間、三重県鈴鹿市の鈴鹿医療科学大学 千代崎キャンパスで開催された。本学術大会は、公益社団法人日本放射線技術学会 中部支部と中日本地域の各県(診療)放射線技師会の合同開催であり、大会長に三重県診療放射線技師会 山田隆憲会長、副大会長は鈴鹿医療科学大学 中西左登志教授により行われた。

大会テーマは「次世代へつなぐ技術と英知のサミット」とし、5月に開催されたG7伊勢志摩サミットで世界的な社会貢献を果たした三重県の地で、われわれ診療放射線技師の技術は、先代たちの英知を技術に体現し受け継がれ、今ある放射線医療技術を正しく使い、高精度かつ適正な医療に貢献すること、さらにその先の発展を見据えなければならないという、大会長をはじめとする三重県診療放射線技師会の皆さんの熱い情熱が込められた大会となった。

参加人数は、712人(会員554人、非会員46人、学生会員42人、学生70人)。当日は、鈴鹿サーキットで全日本ロードレースの最終戦、伊勢神宮がゴールである全日本大学駅伝が開催され、宿泊や交通規制が心配されたが、多くの方々が参加された。

大会内容は、一般演題121演題・特別講演・特別企画サミットディスカッション・シンポジウム・女性活躍



推進サミット・一般公開講座・教育セミナー・読影補助技術向上セミナー・ランチョンセミナー、および広告協賛40社、展示協賛17社であった。

特に、今までは各モダリティーの撮影技術向上に重きが置かれていた私たちの職能に加えて、患者さんの目線に立った医療の視点を意識して取り入れ、今後の診療放射線技師の在り方を考えるプログラムであった。

今回、アンサーパッドを用いた女性活躍推進サミットでは「妊娠中の業務について～妊娠中のガイドライン作成に向けて～」と題し、妊娠出産経験者、これからの人、サポートする先輩・後輩・上司など7人のパネリストにより、妊娠中の女性技師と一緒に働く技師両者が納得できるガイドラインの作成について、会場からの意見も交えて活発に討論された。

特別企画サミットディスカッションでは「組織の将来構想とクリニカルラダーのありかた」をテーマに、日本診療放射線技師会副会長 熊代正行先生、日本放射線技術学会副代表理事 錦成郎先生、日本看護協会副会長 大久保清子先生による価値あるパネルディスカッションが行われた。

特別講演「医療におけるデータ活用～分析力・パターン認識が医療にもたらす可能性～」では、膨大なデータを解析・活用していくことで、医療を含むヘルスケア領域において大きなイノベーションが起きる可能性についての壮大な内容であった。

画像読影補助技術向上セミナー(X線撮影・CT・



MRI・胃透視)では、興味深い企画で全ての会場で多くのご参加を頂き高評価を得た。

一般公開講座では、元おニャン子クラブの生稲晃子さんと三重大学附属病院乳腺センター教授 小川朋子先生をお迎えして、生稲晃子さん自身の乳がん体験を元に、皆さまと共に『乳がんについて考える』シンポジウムが行われた。

私たち診療放射線技師ががん診療と向き合う患者さんのことを思い、そして行動を考えることは、やはり未来の医療でも特に不可欠な要素である。一般市民の方(168人)とがん治療について一緒に考える機会となり、会場は大盛況であった。

意見交換会は、会場をホテルグリーンパーク鈴鹿に移し、総勢161人の参加者を三重県の松阪牛丼・伊勢うどん、各県の銘酒、その他、おもてなしの心で迎え、余



興では、ビートルズのコピーバンド(ザ・セルターブ)の演奏を皆さま(特に往年の先生方)と共に楽しんで過ごすことができました。

不安材料であった交通のアクセスでは、最寄駅からバス2台で30分おきのピストン輸送が行われ、意見交換会会場への移動もスムーズで、近郊でのイベントの影響も最小限にとどまり^{あんど}安堵した。

大会開催に際しご尽力いただいた関係各位に感謝申し上げます。

次回、第10回中部放射線医療技術学術大会は大会テーマ「人体を診る～画像再構成の最前線～」と題して、平成29年11月4日(土)・5日(日)岐阜県「じゅうろくプラザ」で開催予定である。今大会同様、盛会に開催されることを祈念する。

JART求人広告掲載について

平成29年4月号より、求人広告掲載は会誌「JART」へ移行します。広告掲載のお申し込みは随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ(各種様式→その他)よりダウンロードしてご確認ください。なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

INFORMATION

第32回日本診療放射線技師学術大会 一般演題 座長集約 ホームページ掲載のお知らせ

平成28年9月に岐阜県で開催された、第32回日本診療放射線技師学術大会の「一般演題 座長集約」を、会員の閲覧用に本会ホームページに公開致しました。

閲覧には、お使いのウェブブラウザのURL欄に、以下のアドレスを入力いただき「32th_doc.pdf」PDFファイルをダウンロードしてください。ホームページ上にはダウンロードにつながるリンクボタンは設置しておりませんので、ご了承ください。

■ダウンロードURL：http://www.jart.jp/32th_doc.pdf



INFORMATION

2016年度第12回 中四国放射線医療技術フォーラム (中四国地域学術大会) 報告

公益社団法人日本診療放射線技師会
理事 北川明宏

ご縁とおもてなしの国・島根で平成28年11月19日(土)・20日(日)の2日間、松江市の島根県民会館で第12回中四国放射線医療技術フォーラム(中四国地域学術大会)が開催された。

本大会は、第24回日本診療放射線技師会 中四国診療放射線技師学術大会と第57回日本放射線技術学会 中国・四国支部学術大会との合同開催であり、島根県では2回目の開催である。大会テーマは「和 調和から創造力へ」とし、中四国9県をはじめ、全国へ和を発信し、医療に従事するスタッフが高い専門性を持ち情報を共有し合い、医療技術の向上に的確に対応することが本大会の目指すところであり、放射線の専門家として果たすべき役割である。

プログラムの市民公開講座1は、特別企画として「認知症を理解する」と題し、認知症治療の第一人者であり、認知症早期発見のため数々の機器の開発、予防効果の研



壇上で説明される岩佐まり氏

究をされている鳥取大学医学部環境保健学分野教授 浦上克哉先生による教育講演、家族の立場からフリーアナウンサーの岩佐まり氏、医療・介護職の立場から本会理事であり認知症ケア上級専門士 橋本薫氏より講演いただき、認知症予防や認知症の対応について会場の皆さんに訴えるように話され、特に現在、母親を介護されている岩佐まり氏の講演「若年性アルツハイマーの母と生きる」は、ビデオ映像もあり、目頭が熱くなる場面がたびたびあった。

市民公開講座2は、映画「ブタがいた教室」の原作者でも有名な、京都教育大学教授 黒田恭史先生による「本当に大切なものは何か 一命の授業900日」と題した講演が行われた。学校で一匹のブタを飼育していく過程において、さまざまな考え方が紆余曲折しながら一つの答えを導き出していくところは「和 調和から創造力へ」と相通じるところがあるように思えた。そして会長講演は、中澤会長より「診療放射線技師関連法令及び臨床実習について」、日本放射線技術学会代表理事講演には船

橋正夫さまより「学会の明日に向けて 一今考えるべきこと」という題でお話いただいた。特に中澤会長の講演では、診療放射線技師の教育について熱い気持ちがあつた。

演題数174、参加者(会員590人、学生11人、賛助会員40人、名誉会員4人、来賓7人)合計652人にご来場いただき、本学術大会は盛会のうちに幕を閉じた。



本会 中澤会長と橋本理事による講演の様子



日本診療放射線技師会から メールマガジン配信開始に関するお知らせ

INFORMATION

日本診療放射線技師会では、平成29年度より電子的な「メールマガジン」の配信開始を予定しております。

【メールマガジンの配信とは】

メールマガジンの配信では、本会からのお知らせ電子メールを随時お手元（登録電子メールアドレス宛て：下記参照）にお届け致します。各種の情報が届きやすくなると同時にリアルタイム性が向上し、ウェブサイトと連動した情報取得も可能になります。

【配信されるメールマガジンの情報は】

メールマガジンでは、下記に関する情報を配信する予定です。

- ・平成29年4月から完全電子化される「Network Now」に関するお知らせ
- ・その他、本会からの連絡やお知らせ（講習会や学術大会のご案内）など

【配信されるメールアドレス】

JARTIS内に新設される「メールマガジン専用アドレスの登録」メニューに登録された電子メールアドレスに送信されます（電子メールを受け取らない設定も可能です）。

【JARTIS「メールマガジン専用アドレスの登録」メニューからできること】

■メールマガジン送信先電子メールアドレスの登録・変更

※2017年3月1日の時点で、JARTIS基本情報欄に電子メールアドレスが登録されている方は、同一アドレスを自動転記してあります（変更可能）。

※メールマガジン送信先アドレスには、JARTIS基本情報欄のメールアドレス登録と異なる、携帯・スマートフォン・インターネットフリーメールアドレスも登録可能です。ただし、JARTIS基本情報欄の電子メールアドレスはPCのみとなっており、こちらの変更はありません。

■メールマガジン送信（受け取り）の可否に関する登録

※平成29年4月から完全電子化される「Network Nowに関するお知らせ」や「その他本会からの連絡やお知らせなど」の受信許諾について選択可能です。

※両方ともチェックを外す（「希望しない」に設定する）と、本会からのメールマガジンは送信されません。

■HTMLメール受け取りの可否

※HTMLメールに関する受け取り可否の選択が可能です。

※当初は全てのメールマガジンがTEXTメール（テキストメール）で送信されます。

【重要】メールマガジンは予約配信されます。この関係で、直前の登録変更には対応（変更内容の反映が）できません。ご了承ください。

【JARTIS設定方法】（3月上旬から利用可能です。）

1. JARTISにログイン。「マイページ」から、「ユーザ情報」メニュー内の「住所・勤務先・学位等のご利用者情報を確認・変更する」を選択。
2. 「登録情報の確認・変更」メニューから、「勤務先」カテゴリーにある「変更」（もしくは「確認」）を選択。
3. 最下段の「メールマガジン専用アドレスの登録」から必要事項を入力、もしくは変更してください。

【今後の予定】

- ・3月上旬に、JARTIS内の新メニューが使えるようになります。
- ・3月中旬に、送信専用アドレス（jart_mail@jart.or.jp）からの試験メールが送信されます。受信をご希望される場合は、受信予定の端末（携帯・スマートフォンなど）において、着信許可の設定をお願い致します。
- ・3月下旬に、再度送信専用アドレス（jart_mail@jart.or.jp）からの試験メールが送信された後、4月以降、本運用を開始致します。

【重要事項】

- ・メールマガジンを受け取らない設定も可能です。受け取りたくない場合は、JARTIS内のメニューから設定を変更してください。
- ・JARTIS内に利用者登録のある「会員」・「非会員」の全てに、一律に本会からのメールが送信されます。
- ・当初の設定は、全て「受け取る」になっています。
- ・複数回着信が確認できない場合、メール配信を停止し、メールマガジン用のアドレスを削除します。
- ・メールマガジンの送信専用アドレス（jart_mail@jart.or.jp）に返信いただいても、本会には届きません。メールマガジンには返信しないでください。

本件に関する問い合わせ先：公益社団法人 日本診療放射線技師会広報委員会 委員長（理事） 松田 恵雄



第6回 第33回日本診療放射線技師学術大会 函館への道(食・街・人)

函館放射線技師会 会長 真壁武司



INFORMATION

函館の洋食

第33回学術大会のテーマ「未来への開港 一技の継承と飛躍」にもありますように、江戸末期1859年(安政6年)に、横浜港・長崎港とともに日本国内で最初の貿易港として函館港は開港しました。これによって函館には外国からの物資はもとより、洋食文化も入ってくるようになります。

函館山の夜景を鑑賞した後に立ち寄れる**五島軒(ごとうけん)**は、明治12年創業の137年間も続く函館洋食の老舗です。五島軒は函館市末広町に本社を置き、洋食店の経営、菓子・カレー製品の製造・販売をする企業です。お店の中は、白を基調とした歴史と気品が感じられる造りの中、ゆったりとテーブルが配置されています。有名なのはカレーで「明治の洋食&カレーセット」などがあります。これはポターージュとサラダ、そしてコロツケ類やエビフライ、ビーフシチューと-halfカレー、そしてデザートとコーヒーという内容です。コロツケやフライは衣がきめ細かく、しっとりしていると評判です。この他にもイギリスカレーも有名で、レトルトでも販売され評判が高いです。また平成元年に天皇、皇后両陛下が来店した際にお召し上がりになった「リッチ鴨カレー」という至極のカレーもあります。

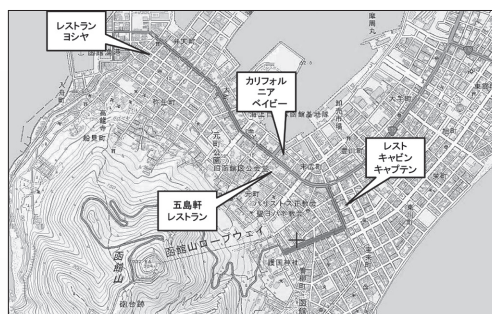
続いて、西部地区で愛される老舗洋食店「**レストラン ヨシヤ**」を紹介します。名物のエビフライが人気でソファ席もあり、ゆっくりくつろげるお店です。このエビフライは、天然の車エビを使った30cmもある大きなエビフライで地元では有名ですが、それ以外のメニューも手作りにこだわり、手間暇掛けて作られた物ばかりです。あれもこれも食べてみたいという食いしん坊の方にお薦めなのは、エビフライ・ハンバーグ・ヒレカツが一度に楽しめる「Aセット(カップスープ・ライス、コーヒーまたはバニラアイス付き)」です。

函館山周辺でもう1軒、老舗の洋食店「**レストキャビン キャプテン**」があります。お店は船の客室をイメージしているそうで、至る所に船を思わせるアイテムがあります。ハンバーグ・ソテー・カツなど、いかにも町の洋食屋さんというメニューが並んでおります。

金森倉庫近くには、函館出身のロックバンド「GRAY」も通ったというアメリカンな洋食屋「**カリフォルニア・ベイビー**」というお店があります。ここの名物はご当地メニューの「シスコライス」で、バターライスの上にソーセージが2本乗っており、上からチリソースがかけられています。一緒にポテトサラダ・コーンなどが添えられ、ボリューム満点でおなかいっぱいになります。

今回は、函館山の麓や金森倉庫群のある港周辺の洋食店を紹介しました。街並みを散策しながらおながすいたら、ランチに函館の洋食をお楽しみください。

※地図は国土交通省地理院地図より転用



Network Nowの完全デジタル配信のお知らせ

平成28年4月より3カ月間の遅延を設けて、Network Nowをホームページへ掲載してまいりましたが、平成29年4月より3カ月間の遅延を廃止し、ホームページへ掲載することとなりました。それに伴いまして、冊子の送付は廃止となり、Network Nowは完全デジタル配信となります。

また会誌「JART」に、Network Nowに関して以下の項目を新たに掲載致します。

- ① Network Now 掲載記事見出し一覧
- ② 求人コーナー

ぜひご利用ください。

何とぞ、よろしくお願い申し上げます。

INFORMATION

本会の動き

副会長 熊代 正行

指定規則の見直しに向け教育施設協議会と協議する

診療放射線技師養成教育の根幹を成す指定規則について、本会と全国診療放射線技師教育施設協議会の代表者により、平成28年11月22日の第1回の意見交換会議を皮切りに、12月26日に第2回、続いて平成29年1月30日に第3回の会議がステーションコンファレンス東京で開催された。

指定規則については、平成12年に診療放射線技師学校および養成所におけるカリキュラムの見直しが行われ、平成13年3月10日付をもって診療放射線技師学校養成所指定規則が改正されているが、この改正からすでに15年が経過し、指定規則そのものが時代に対応できなくなっている。臨床実習の在り方も、現在の見学型から参加型に変えていくことが求められている。平成27年3月には業務拡大に伴う指定規則の見直しが行われたが、全面的な改正には至っていない。診療放射線技

師学校養成所指定規則の全面的な改正に向けて、全国診療放射線技師教育施設協議会から代表者として遠藤啓吾会長(京都医療科学大学学長)、金高雅輝副会長(神戸総合医療専門学校学長)はじめ理事・監事などの役員および事務局員の計9人と、本会から中澤会長、両副会長はじめ担当委員会の委員長・委員および事務局員の計9人が出席し、延べ十数時間にも及ぶ意見交換が行われた。今後、両会の以下の争点について最終の協議を詰め、厚生労働省に要望書を提出する予定である。

- 1) 保健医療福祉における理工学的基礎ならびに科学および技術の単位数
- 2) 画像診断学もしくは画像診断技術学の名称および単位数
- 3) 見学型臨床実習から参加型臨床実習に向けた単位数
- 4) 臨床実習の水準を定め、曝射行為を行うか否か

調査委員会から平成29年度実施予定調査のお知らせ

INFORMATION

調査委員会では、2年ごとの調査として平成29年度は『業務実態調査』『給与の動向に関する調査』を行います。調査票は、設問内容と回答方法が分かりやすいように、紙面調査からExcel(チェックボックス・チェックボタン)を使用した方式に変わります。全国の会員ならびに施設の状況が反映できるように、全国で1,250以上の回答数を目標としています。実施に当たり47都道府県(診療)放射線技師会のご協力を頂いて、各都道府県の会員皆さまへ調査依頼をお願いします。

- 1) 調査名 『業務実態調査』『給与に関する動向調査』
- 2) 調査期間 『業務実態調査』 平成29年4月15日~5月15日
『給与の動向に関する調査』 平成29年12月~平成30年1月ごろ(予定)
- 3) 調査方法 Excel(チェックボックス・チェックボタン)を使用した方式
- 4) 調査案内 案内一式を47都道府県(診療)放射線技師会会長へメール送信
- 5) 回収方法 Excel調査票を調査委員会へメール送信
- 6) 47都道府県調査依頼数 全国依頼数1,250以上

地域	都道府県	依頼数	地域	都道府県	依頼数	地域	都道府県	依頼数	地域	都道府県	依頼数									
北海道 (1)	北海道	50	東北 (6)	青森	20	北関東 (5)	新潟	30	南関東 (5)	千葉	30									
					岩手		20			栃木	20		東京	50						
					秋田		20			茨木	30		神奈川	50						
					宮城		20			群馬	30		山梨	20						
					山形		20			埼玉	40		長野	30						
			福島	30																
合計		50	合計		130	合計		150	合計		180									
中日本 (7)	富山	20	近畿 (6)	滋賀	20	中四国 (9)	岡山	30	九州 (8)	福岡	50									
	石川	20			京都		20			広島	30		佐賀	20						
	福井	20			奈良		20			鳥取	20		長崎	20						
	静岡	30			和歌山		20			島根	20		大分	20						
	愛知	50			大阪		40			山口	20		熊本	20						
	岐阜	30			兵庫		40			徳島	20		宮崎	20						
	三重	20						香川		20		鹿児島	20							
						愛媛	20			沖縄	20									
						高知	20													
合計		190	合計		160	合計		200	合計		190									

事務所案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。
ただし、土曜、日曜、休日、祝日および年末年始(12月29日~1月3日)は執務致しません。